新年度を迎え、大学から育友会へのメッセージ

育友会の活動にぜひご参加ください

学長　佐々木重人

ささき しげと　1955年東京都生まれ。78年専修大学商学部卒業。83年専修大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学。同年専修大学商学部助手。専任講師、助教授を経て95年に教授。商学部長(2013～16年)。博士(経営学)神戸大学。税理士試験委員（11～13年度)。日本会計史学会会長(13～16年)。16年より専修大学学長。専攻は会計史。

新緑に包まれた新年度も早一カ月が経ち、新入生も日々の大学生活に一定のリズムが生まれてきた頃と思われます。ご父母・保護者の皆様には、いつも本学の教育・研究活動にご理解を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。とりわけ本年度から、あらたに育友会員となられました新入生のご父母・保護者の皆様には、ご子弟・ご子女の本学への入学に際しまして、多大なご支援をいただきましたことに対して、厚くお礼を申し上げます。

育友会は、専修大学の学部学生のご父母・保護者の皆様が会員となり、大学での教育や課外活動、各キャンパスでの生活全般に関わる情報を本学と共有し、学生を共に支援する組織です。本学に対する多方面に及ぶ育友会からの支えは、私どもにとって大きな心の支えとなっております。特に、近年頻発している自然災害に被災した世帯の学生や家計急変が生じてしまった世帯の学生に対する経済的支援、そして留学生や体育会所属クラブへの応援活動は、頑張っている学生への温かいエールとなっております。あらためて、心より御礼申し上げます。

本学は21世紀ビジョン「社会知性の開発」のもと、現代の社会に生起するさまざまな課題を地球的視野に立って自ら発見し、進んで解決する能力を身に付けた人材を育成するため、日々、教育改革を進めています。教育サービスについては、2026（令和8）年度に予定する全学部一斉カリキュラム改正に向けた最終調整、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベルプラス）への取組支援、法科大学院と法学部の連携強化を図る「法曹コース」の魅力発信、リカレント教育実施体制の強化等を図っていきます。また、キャンパスDXを推進するため、「SiUグローカル・スマート・キャンパス」を定着させ、実装化に向けて取り組むとともに、本学創立150周年に向けた全学レベルでの議論を始めていきたいと考えております。

こういった取り組みを継続・発展させていくにあたり、育友会の皆さま方のご支援が強力な下支えとなっていることは言うに及びません。引き続き本学の学修環境整備についてご支援を賜れれば幸いに存じます。

また、本学では上記のような各種施策のみならず、育友の皆さまとの緊密なコミュニケーションをより重視してゆきたいとも考えております。育友会が夏期休暇期間中に全国各地で実施する「支部懇談会」には、ぜひお越しください。本学教職員からお伝えする大学の近況や就職に関するご報告のほか、個別面談を通じてのご相談にも応じております。

今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

社会の変化とともに歩む学生たちへの支援

理事長　松木健一

まつき けんいち　1951 年福島県生まれ。73 年専修大学法学部卒業。78 年専修大学入職。2002 年専修大学総合企画広報室長、03 年同学長室長、06 年学校法人専修大学常務理事、15 年同専務理事。学校法人専修大学松戸高等学校理事、同評議会、学校法人玉名学園理事などを歴任。21 年より学校法人専修大学理事長。

育友会の皆様には、日頃より本学の運営にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

一昨年来、新型コロナウイルスの感染状況は落ち着きを見せ、学生たちの活動は活発になり、キャンパスは従前の活気を完全に取り戻しました。次世代の社会を担う人材として、自らが掲げた目標の実現に向かって成長するその姿は頼もしくもあり、嬉しくもあります。

本学は、21 世紀ビジョンとして「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」を掲げ、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に教育・研究の環境整備に取り組んでいますが、社会に目を向けると、生成 AI の急速な普及と IT 技術の飛躍的な進展は目を見張るものがあります。いまだ AI の活用の在り方については議論の余地があるものの、それらの恩恵を活かし、生活の質の向上を模索する社会が世界中に広がっていることは紛れもない事実です。こうした現状を踏まえ、本学では全学部でデータサイエンスの知見を深めるための教育プログラムを充実させています。学生たちが、社会の諸課題の解決に主体的に取り組む人材へと成長できるよう、これまで以上に支援を続けて参ります。

育友会の発展を祈念するとともに、今後も変わらぬ学生へのご支援を賜りますようお願いいたします。

オール専修の結束で学生の未来を拓く

総長　日髙義博

ひだか よしひろ　1948 年宮崎県生まれ。70 年専修大学法学部卒業。75 年明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。同年専修大学法学部専任講師、助教授、84 年に教授。88 年法学博士。法学部長（2001 ～ 04 年）、専修大学長（04 ～ 13 年）、学校法人専修大学理事長（06 ～21年）、21 年より専修大学総長。司法試験考査委員、大学設置学校法人審議会委員等歴任。専攻は刑法学。

今年度の入学志願者数も目標の 5 万人を超え、伸び代のある学生を迎え入れることができました。これも、育友会の皆様が本学の良さを多方面に発信し、支援していただいているお陰です。日頃のご支援・ご協力に対し、お礼申し上げます。

大学は教育・研究の場ですが、学生・教職員だけで動いているものではありません。大学の持続的発展を期すには、育友会と校友会が両輪となって、建学の精神を具現化する人材の育成に関わっていることが必要です。生き残りをかけた大学改革の時代にあっては、オール専修の結束が極めて重要です。育友会の皆様も専修大学を「わが母校」だと思って、オール専修の輪の中に入り、様々な活動にご参画いただきたいと存じます。

大学は、学生が変身する場でなければなりません。偏差値にこだわっていては、自己の進むべき道を切り拓くことはできません。自己の殻を破って自己の進むべき道を見出すことで、学生は大きく成長します。ここでは、教え込むのではなく、学生が自ら掴み取るのを待つことが必要です。教育は、「待つこと」でもあります。育友会の皆様におかれましても、学生の自己変革を見守っていただければ幸いです。オール専修の絆を結束し、様々な分野で光を放つ人材を育成する所存です。